



題字 林 邑一

第 9 号
平成元年3月21日
阿品台地区
コミュニティをすすめる会
阿品台公民館
(TEL 39-4338)
阿品台人口世帯数
3月1日現在
人口 (男5,590人
11,539人 (女5,949人
世帯数 3,260世帯

10周年を迎えた阿品台あれこれ

阿品台十歳

阿品台に町ができ、10年の歳月が流れた。「海の見える廿日市ニュータウン」とのキャッチフレーズ

に引かれて、転居してきた人達も多かったにちがいない。阿品台東小学校の開校(昭和54年4月)の直前に引越してきた頃は、一階で横になったまま宮島の鳥居を眺めることができた。心地よい建築のツチ音を聞いているうちに毎日が建ち並び、やがて二階で背伸びしても鳥居が見えなくなってしまうた。

小学校の第一回運動会(昭和54年10月)では、児童数が約160名と小人数のため、父兄参加の競技種目も多く、児童の観戦と父兄の出場が交互になり、忙しくも楽しかった。入居後飼いだめた犬をつれ

て、町並みが整っていく状況を見ながら、よく散歩したものである。その犬も昨秋、病死して寂しくな

った。良好な住環境のもとで過すことができたのも、多くの好条件に恵まれたからであろう。宅地造成から住宅建設を経て今日に至るまで平和な時代が続き、わが国は二度の石油危機を乗り越え、物質的には豊かな社会となった。一方では、過疎と過密が進展し住宅問題が深刻化していくなかで、阿品台は全国的にみても自然に恵まれた住みよい町となった。こうしたなかで個人的には健康にも恵まれ幸いに思っている。

ことは事実であるが、入居以来グリーン協定によって緑化に努力がなされて、美しい町となりつつある。阿品台の住民をあたたく受け入れて下さった地元の方々への感謝も忘れはならないことと思う。

阿品台二丁目 尾崎正亮

阿品台時のながれ

通称「古北」(阿品台北)の我家の卓上には、よく各地の名産が並びます。と言うのも、近所の方々が古郷を各地に持たれているからです。

広島以外で生活をしたことのない、私達家族にとっては、めずらしい食べ物、食べ方に出会えたときは、とてもうれしく思い、主婦である私にとってはレパートリーもふえ大変勉強になる事ばかりです。北区が出来てもうすぐ十年にな

ろうとしています。数件しかなかった家も百件近い家々が建ち並びました。北区の行事も色々ありますが、子供も大人も大いに楽しめる「お祭り」は、新しい住人同志のつながりでここまですまるとは……と、第一回るときは皆が感激したものです。その後も皆の協力のもと現在に至っています。入居当時は小さい子供がほとんどだったこのあたりも、中・高・社会人へと大きく成長してきました。当然、親も子も行動範囲が広がってきます。北区へ上ってくるバスが以前に比べれば便利になったとは言え、まだまだ便が少なく困っています。JRの駅もニュータウンの人々の力で出来る様になったのですから、もっと便利になったらいのになあーと思いません。

誰もが宮島の朱塗りの鳥居が眼前に見えることに喜び引越して来たのでは……ニュータウンに年々多くの家々が建ち並び変化しつつありますが、北区から見えるこの瀬戸内海の風景はこれからも変わらず私達の心をなごませてくれることでしょう。

阿品台北 田丸文子

阿品台讃歌

とても小さな、田舎町に見えませんでした。

私が地御前の人になって二十年近くなろうとしている今、山を崩し、小さな団地になるはずの地を初めて訪れた時、そう思いました。それが緑ヶ丘団地です。

子供達も地御前小学校に入り、美しく豊かな自然の中で、その周辺をうろつき回るだけで一日が終り、そうしていつしか一年が過ぎてゆく小さな世界。そうした中で一緒に学び遊んだ何人かの友達、阿品台団地がこれから根づこうとしているころ出来上ったばかりの阿品台東小学校へと移って行きました。地御前小学校の門をくぐったように、一緒に卒業出来ると思っていた友達との別れは、親も子もちょっぴり淋しいものだったような気がします。そんな中で我が家の海外転勤は、外側から日本を見る事が出来た生涯の一時期であり、四季の美しさをはじめ、日本のすばらしさを十分見い出せたと思っっています。

三年ぶりに帰国。眼下に見える宮島の無言の海をしたがえて、阿品台団地は、さまざまな家が建ち

並び高校までもがある。とうてい実感出来ないような一つの立派な街になっていました。たまに行くスーパーでは、都会の華やかさを感じ出させる姿があったり、素朴そうな姿を目にしたたり、緑ヶ丘団地の中では感じるこの出来ない人間模様を、眩しく思っています。地御前から阿品台団地を見上げる時、何故か近くとも遠いところのように思っていました。阿品の美しい台地に建つ中学校の校舎で、息子が青春の何ページかを育んでいただいたお陰で、身近かに感じられるようになりました。人は想い出を語る時、通いなれ



た道の木々の緑や、青空の下で見た一見何でもない子供の頃を想い起こすもののようにです。

地御前や、阿品台が、故郷になるであろう子供達の故郷が、美しくなろうはずがありません。

地御前緑ヶ丘団地

相馬一子

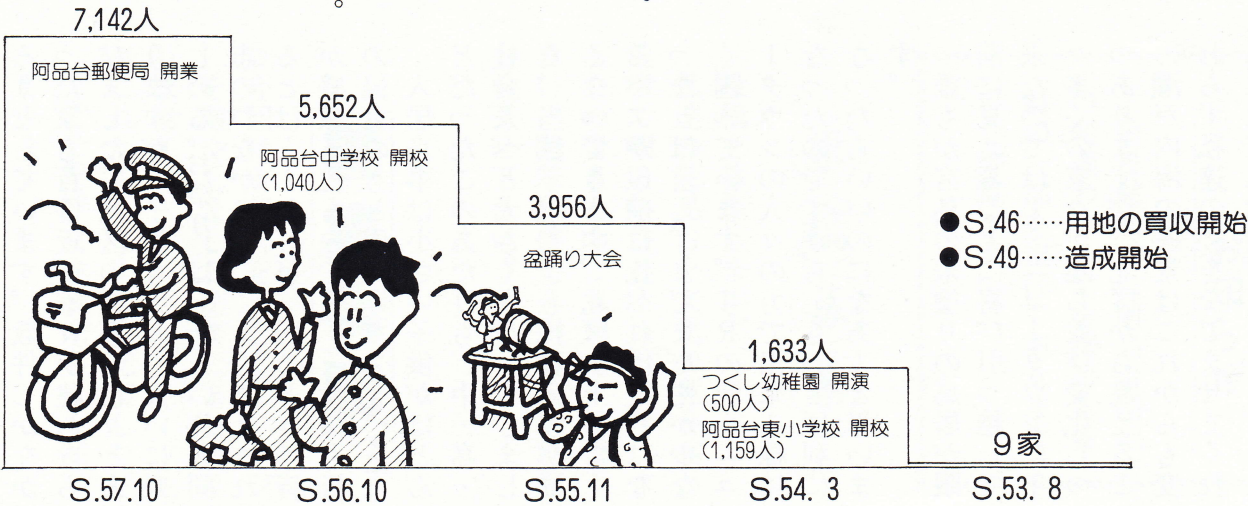
阿品台のあけぼの 十年の歩み

新しい団地が出来上るためにはさまざまな物語が刻まれていきます。その一部をふりかえって、十年来住んでこられた皆さんに、それぞれの思い出を聞いてみました。

●昭和四十四年、広島木材港の計画の中で、埋め立ての土を、この台地から持って行くことになった。阿品台の槌音はここに始まる。

●昭和五十三年八月に阿品台二丁目の九世帯がこの団地の最初の入居者である。

●外燈は、県の造成によるバス通りに面した水銀燈が一つ毎に燈さ



暗い団地で心細い限りであった。
 ●ごみ捨て場も一ヶ所しかなく幼稚園もマリア幼稚園、ひろみ幼稚園に通うバスに乗って通園したり広島市内まで、前からの園へ通うのに一時間に一台しかないセンター行きのバスを利用して、大変であった。

●タクシートの運転手さんも、「へー暗いところですね。こんなところに家があるのですか」という調子で、遅い帰りの人を送ってくれた。反面、バスは「どこがお宅ですか」と家の近くで止まってくれたり、ゆっくり待ってくれたりして、大変のどかなことであった。

●小学校は、阿品台小が五十四年度より開校。一学年一クラスで、それも二十数名の学年もあって、家庭的な雰囲気だった。けれど、まだ学校の外まわりは整っていないので、生徒達は、石ひろいや、その他建築中の雑音の中で、たくましく学習したものである。中学生は、七尾中学校まで徒歩で通い、クラブをしてまた歩いて帰る毎日健康そのものの生活だった。

●金融、病院、郵便、その他の公共施設は全然なかったので、苦勞していた。その中でも一番近い吉田医院へ通うために、お年よりの

方の足で、帰路は歩行困難な階段を上るため（階段の歩巾が広すぎて上りにくかった）住人有志の努力によって、請願し現在の状態になった。

●住居が少ないため、宮島ボートの音がよく聞え、風は今より強くあたるので、洗たく物が空中を舞っていた。

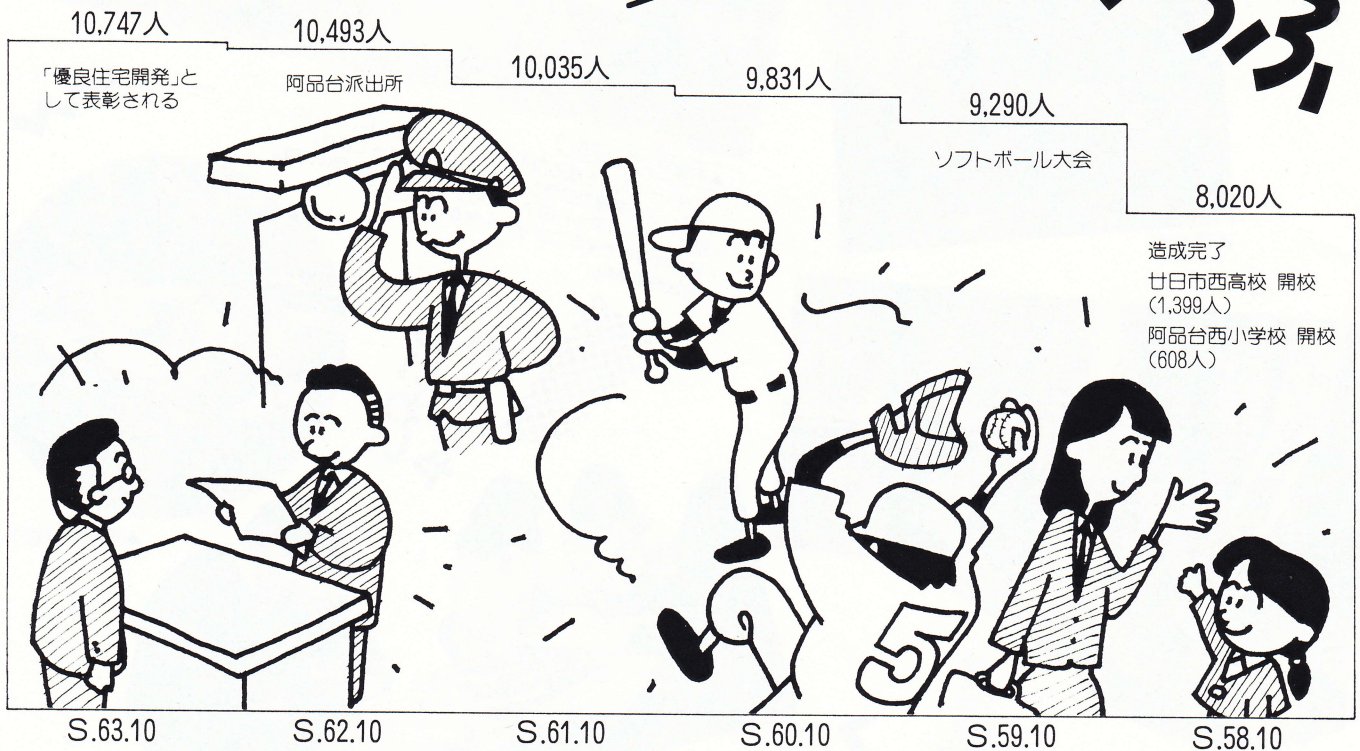
●造成の石垣があるだけで、まだ宅地価が書いてある立て板がありクローバの生い茂る中は、犬の散歩には格好の広場であったり、子供達も、自由にボールを蹴ったりしてのびのび遊べた。

●下の砂場では、貝拾いという名にふさわしく手で拾いあげるときぎつくりと親指大の貝がとれ、その貝のおいしさに、自然の恵みを、宮島の景観と共に感謝する毎日であった。

●住人が少なく、垣根もない、という事は、隣人に対しても、ことのほか心を開きやすく、子供達も家並の間を通り抜け、声のかけあいも、おのずから家族的であった。

●バスも多くなり、公共施設も日増しに整ったけれど、交通事故が多発し始めたのは一番心の痛むことである。

阿品台ニュータウン 人口ピラミッド



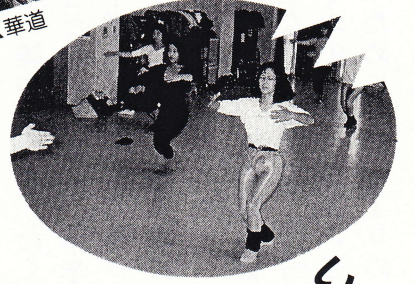
コミュニティの輪も広がり
 公民館を利用して行なわれ
 るクラブの数も七十三にな
 りました。活動のようすを
 スナップしました。
 皆さんもふるって御参加下
 さい。

阿品台公民館
 クラブ活動

クラブ活動



▲華道



▲ジャズダンス

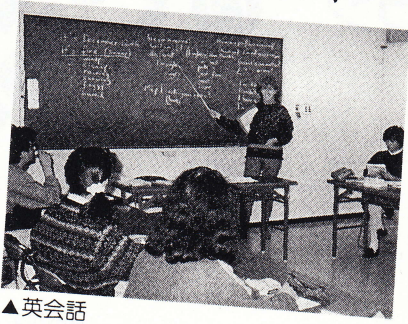


▲子供ジャズダンス



▲木管アンサンブル

- ・メンバー10人から成るフルート、クラリネット、ホルン、バスの楽器でクラシック中心の曲をやっています。
- ・現在、モーツアルトのティベルティメントを練習中です。
- ・目標は今年か来年コンサートをすることです。
- ★経験者募集中!



▲英会話



▲書道(かな)

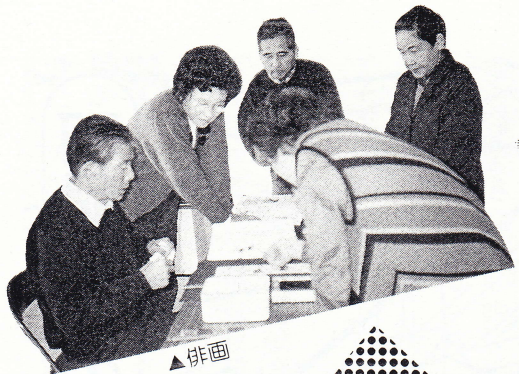
がわい
がわい
がわい



▲絵画



▲手芸



▲俳画



▲箏曲

- ・小学生から主婦までの15名で、わらべうたや童謡を練習中。活動内容も公民館祭り、老人ホーム、保育所など回り、美しい音色を皆さんに楽しんでもらっています。
- ・日本の古来の楽器の美しい音色を求めて自分の趣味をみがい友達ができるので大変楽しい。
- ・公民館で5本琴を買っていただいて、先生にみていただき、家で皆さんは練習して来られるそうです。



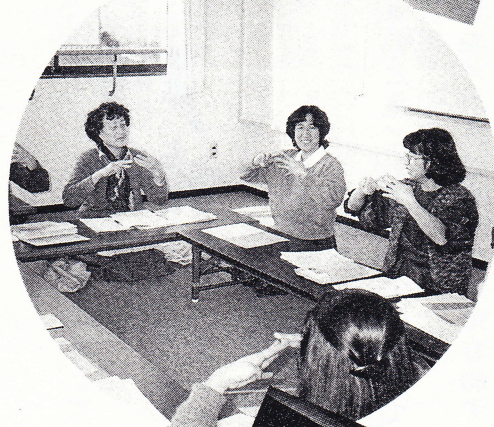
▲幼児学級



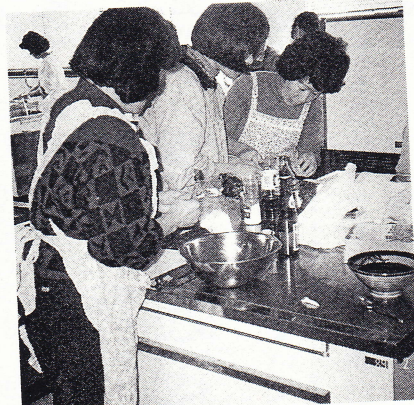
▲出会カラオケ



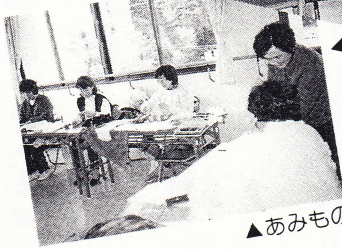
▲イラスト



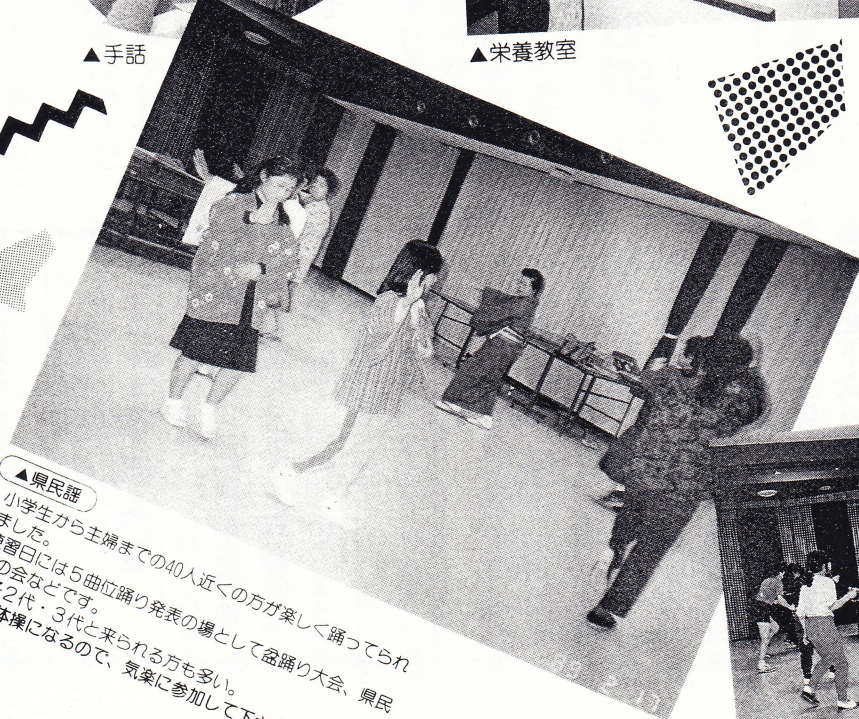
▲手話



▲栄養教室

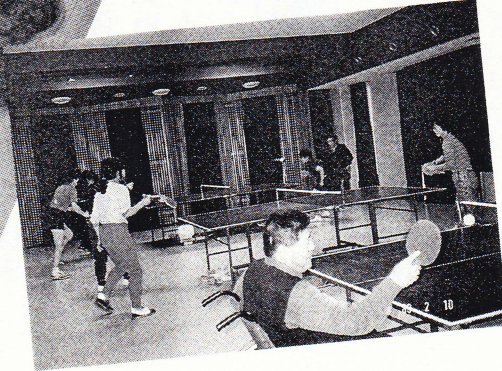


▲あみもの



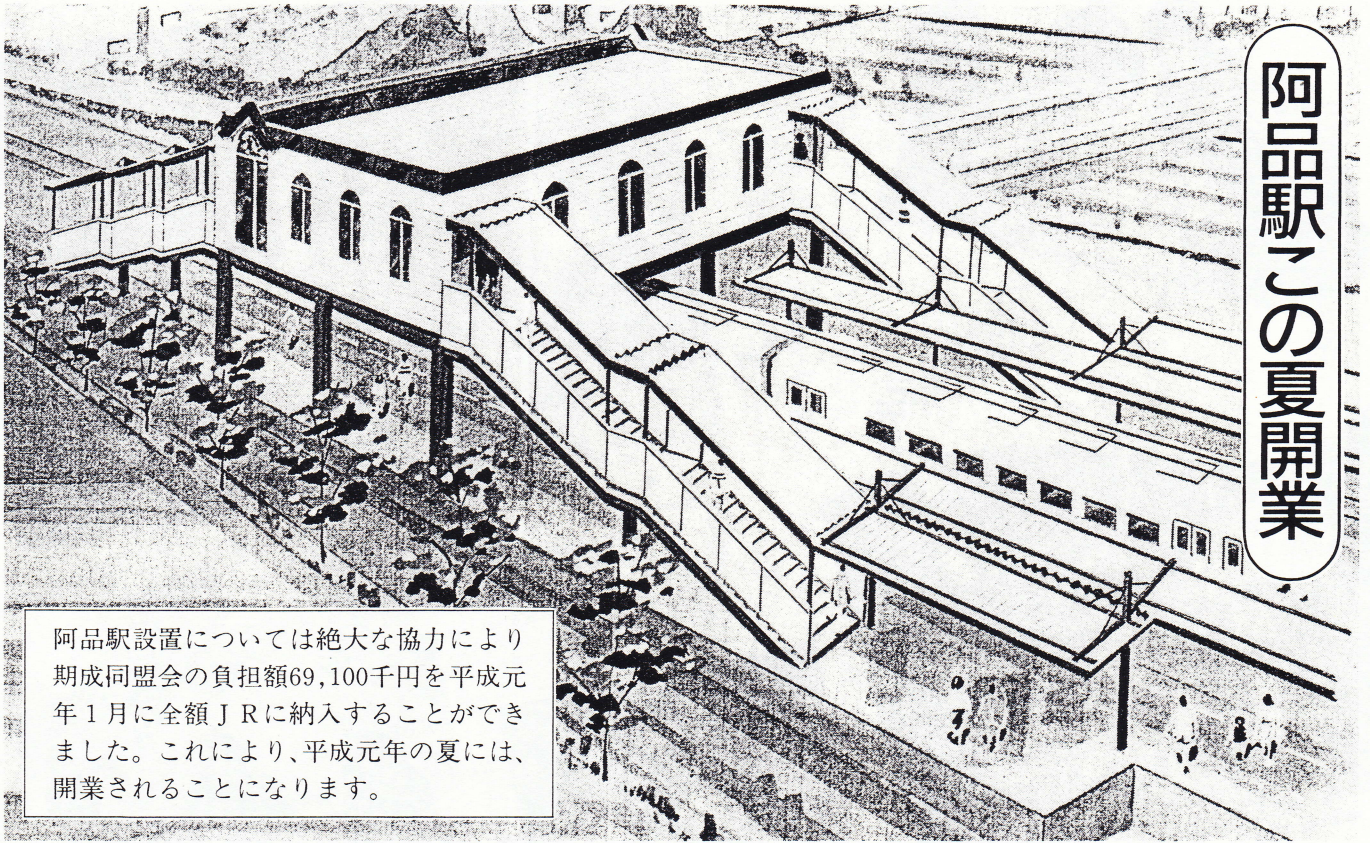
▲県民謡

- ・小学生から主婦までの40人近くの方が楽しく踊ってられました。
- ・練習日には5曲位踊り発表の場として盆踊り大会、県民謡の会などです。
- ・親子2代・3代と来られる方も多いため、気楽に参加して下さい。



▲210

阿品駅この夏開業

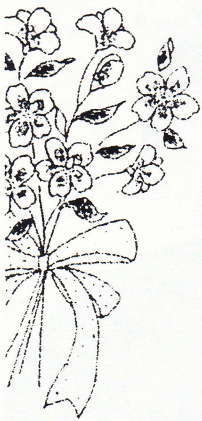


阿品駅設置については絶大な協力により期成同盟会の負担額69,100千円を平成元年1月に全額J Rに納入することができました。これにより、平成元年の夏には、開業されることとなります。

川柳

森川 抜智

- 鶴と亀としも知らずに生きている
- 瀬戸の花嫁橋が出来ても船で行き
- つき合えばこの人なかくやるじゃない
- 酒買って仔犬忘れて帰りかけ
- おしゃべりが過ぎて眼鏡がずって来た
- 望み一つ神様横をむかないで
- カある限りつくすと候補言い
- 合格を知らせに来たか庭に鳩
- 静かなる墓地に名譽の人の名が
- 少し抜けている方が好かれます



公民館入口に阿品台団地の変遷のようすを物語る資料の一部を掲げてありますので御覧下さい。

広報部の

お知らせ

原稿募集

投稿を募集します。

私達の阿品台を文化の薫り高い健康で明るい住みよい町作りにするため皆さんのご意見をご投稿下さい。随筆・俳句・川柳・短歌等もお寄せ下さい。

編集後記

○今回は十年目を記念してページを増やしましたがまだまだ足りません。

○これからもますます充実した、「ふれあい」に成長するよう願っています。